

事務事業マネジメントシート（兼 事務事業コスト計算書）

事務事業名	No. 20	市内小中学校音楽フェスティバル事業		←実施計画上の重点項目 重点施策に該当する場合、ここから該当項目を選択してください	
政策名	No. 1	1 ひとを育てる、守る		所属部	教育委員会
施策名	No. 2	施策6 文化・芸術活動の充実		所属課	教育指導支援課
予算科目	会計	款	項	目	事業コード
		1: 0	0: 6	0: 3	0: 1: 5: 5: 8: 5: 0
事業期間	単年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返		期間限定複数年度 → (平成26年度 ~ 年度)

事務事業の概要(事業の具体的な手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)
 【事業内容】国立市内の学校等吹奏楽部・金管バンドや合唱部等音楽団体が集い国立市青少年音楽フェスティバルを開催し、音楽で表現し合う交流活動を通して、子どもたちの夢と希望を育む事業。
 【予算内訳】報償費(謝礼)、需用費(消耗品費・印刷製本費・修繕費)、役員費(通信運搬費・手数料)、委託料(設置・設営等)、備品購入費(管理及び教科備品)
 この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか)
 青少年育英基金を活用して平成26年度より「国立市青少年音楽フェスティバル」を開催。

1 現状把握の部(PLAN)(DO)
 (1) 事務事業の目的と指標
 ① 手段(主な活動)
 平成27年度の実績(平成27年度に行った主な活動)
 国立市青少年音楽フェスティバル(第2回)を開催
 【日時:平成27年10月25日(日)<第1部>開場10:30 開演10:50、<第2部>開場14:10 開演14:30、場所:国立学園小学校 体育館】
 平成28年度の事業計画(平成28年度に計画している主な活動)
 国立市青少年音楽フェスティバル(第3回)を開催
 【日時:平成28年10月23日(日)時間は未定、場所:くにたち市民総合体育館】
 ② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等
 市内小・中学校児童・生徒
 ③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)
 平成28年度までは市内の小・中学校児童・生徒を対象に行うが、平成29年度より高校生及び大学生(一般、OB)等も含み国立市内全体の音楽活動へと拡大していく。

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)
 音楽で表現し合う交流活動を通して、子どもたちの夢と希望を育み「文教都市」国立の文化水準を一層高める。
 市内小・中学校の児童・生徒が自ら学び自ら考える力を身に付けることで、社会的な自立に向けて人格を形成する。

(2)各指標等の推移

項目	名称	単位	平成24年度(決算)	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)(A)	平成27年度(決算見込み)(B)	平成28年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)
① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 参加団体数(私立含む)	ア 団体			8	12	15		4
		イ							0
② 対象	対象指標(対象の大きさを表す指標) 児童・生徒数(私立除く)	ア 人			4523	4468	4469		-55
		イ							0
③ 意図	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 参加児童・生徒数(私立除く)	ア 人			308	391	553		83
		イ			346	464	618		118
④ 結果	上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	ア							0
		イ							0

(3)事務事業コストの推移

項目	単位	平成24年度(決算)	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)(A)	平成27年度(決算見込み)(B)	平成28年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)
支出内訳	正規職員従事人数	人			1	1	1	
	延べ業務時間	時間			60	60	60	0
	正規職員人件費計(C)	千円	0	0	300	300	300	0
	再任用職員従事人数	人						
	延べ業務時間	時間						
	再任用職員人件費計(D)	千円	0	0	0	0	0	0
	嘱託職員従事人数	人						
	延べ業務時間	時間						
	嘱託職員人件費計(E)	千円	0	0	0	0	0	0
	人に係るコスト計(F)	千円	0	0	300	300	300	0
物に係るコスト	物件費	千円			589	691	1,520	102
	うち委託料	千円			158	358	1,120	200
	維持補修費	千円			11	46	50	35
物に係るコスト計(G)	千円	0	0	600	737	1,570	137	
移転支的コスト	扶助費	千円						0
	補助費等	千円			514	582	600	68
	繰出金	千円						0
	その他	千円			3,189	2,636	2,830	-553
移転支的コスト計(H)	千円	0	0	3,703	3,218	3,430	68	
その他	千円							0
支出計(I)=(F)+(G)+(H)	千円	0	0	4,603	4,255	5,300	0	205
収入内訳	国庫支出金	千円						0
	都支出金	千円						0
	分担金及び負担金	千円						0
	使用料及び手数料	千円						0
	繰入金	千円						0
	その他	千円						0
	収入計(J)	千円	0	0	0	0	0	0
収支差額(K)=(J)-(I)	千円	0	0	-4,603	-4,255	-5,300	0	-205
一般財源投入割合	%	#DIV/0!	#DIV/0!	100%	100%	100%	#DIV/0!	

2 評価の部(CHECK)*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

公共関係と妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【以下に理由を記入】 この事業の目的である音楽で表現し合う交流活動を通して、児童・生徒の豊かな心が育まれる。
② 成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【以下に理由を記入】 徐々に国立市全体へと拡大していく事業であるため、成果の向上及び改善する余地は十分にある。
③ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】 音楽活動を通して協調性や心の豊かさを育むほか、子ども達の夢と希望を育む機会でもあるため、休止・廃止は影響がある。
④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【以下に理由を記入】 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【以下に理由を記入】 市立・私立問わず行われる音楽活動であるため、類似する事業はない。また、授業日数や学校ごとの行事との関連で、現状維持が妥当と思われる。
活動指標・対象指標・成果指標の推移、公共関係と妥当性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は?	本事業の有効性は十分であると判断でき、特に課題はない。
⑤ 事業費の削減余地・歳入の確保	<input type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がない ⇒【以下に理由を記入】 児童・生徒に音楽活動を通して豊かな体験をしてもらうためには、拡充は考えられるが、削減の余地はない。
⑥ 人件費(延べ業務時間)の削減	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【以下に理由を記入】 必要最低限の業務であり、削減の余地はない。
⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】 学校教育の充実の観点から、公費負担が妥当と考える。

事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は?
 今後拡大していく事業であるため、庁内他部署はもとより、市内の関係機関との連携が重要となる。
 時間・コスト・会場等の見直しも必要である。

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)

(1) 担当課評価者としての評価結果

① 公共関係と妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
② 有効性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)
 第1回(H26)の反省を活かし、2部構成にするなど、参加者である児童・生徒の演奏環境に配慮するとともに、保護者等がストレスなく鑑賞できる会場運営に努めた。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可
 廃止 休止 事業統廃合・連携 事業のやり方改善(有効性改善)
 事業のやり方改善(効率性改善) 事業のやり方改善(公平性改善)
 現状維持(従来通りで特に改革改善しない)
 将来的には、対象を高校生や大学生、一般市民にまで広げ、国立市全体の音楽活動に展開していく。そのためにも、会場の安全管理を含め、適切な事業運営と、当日のスムーズな進行に努める必要がある。

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

	コスト		
	削減	維持	増加
向上			○
維持			×
低下	×		×

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策
 今後拡大していく事業であるため、庁内他部署はもとより、市内の関係機関との連携が重要となる。
 時間・コスト・会場等の見直しも必要である。

(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたこととなりますか。また、見直し・廃止となりますか?
 将来的には、対象を高校生や大学生、一般市民にまで広げ、国立市全体の音楽活動に展開していく。

事務事業マネジメントシート (兼 事務事業コスト計算書)

事務事業名: 芸小ホール管理運営事業
政策名: 1ひとを育てる、守る
施策名: 6 文化・芸術活動の充実
予算科目: 一般 1 0 0 6 0 4 0 1 5 9 0 0
事業期間: 単年度のみ

事務事業の概要(事業の具体的な手順、詳細、期間限定複数年度事業は全体像を記述)
この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか)
(事業の内容)通常開館時の窓口業務や、貸館時の来客対応、建物の維持管理は指定管理者による事業となるが、それ以外の施設の工事や修繕、備品整備、機器賃借等を本事業内で行う。

1 現状把握の部 (PLAN) (DO)
(1) 事務事業の目的と指標
手段(主な活動)
平成27年度の実績(平成27年度に行った主な活動)
特定指定管理者との年度協定締結 事務室空調機取替工事 特殊建築物等定期調査 舞台照明賃借料支払(調光卓賃借) 運営備品購入

平成28年度の事業計画(平成28年度に計画している主な活動)
特定指定管理者との年度協定締結 地下スタジオ排煙機修繕 特殊建築物等定期調査 運営備品購入
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等
芸術小ホール施設
芸術小ホール利用者
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)
芸術小ホールを安全・快適に利用できるようにする

結果(どんな結果に結び付けるのか)
文化・芸術活動を支える人材が育ち、市内のギャラリー等を活用した取組みや文化・芸術活動のネットワークの整備などが幅広く行われ、市民が文化・芸術活動に親しんでいます。

(2)各指標等の推移
項目: 施設利用件数, 施設利用者数, 施設面積, 人口, 施設利用件数, 施設利用者数, 上位成果指標, 過去1年間に文化・芸術活動を鑑賞した市民の割合, 過去1年間に文化・芸術活動をおこなった市民の割合

(3)事務事業コストの推移
項目: 正規職員従事人数, 延べ業務時間, 正規職員人件費計(C), 再任用職員従事人数, 再任用職員人件費計(D), 嘱託職員従事人数, 嘱託職員人件費計(E), 人に係るコスト計(F), 物件費, うち委託料, 維持補修費, 物に係るコスト計(G), 扶助費, 補助費等, 繰出金, その他, 移転支的コスト計(H), その他, 支出計(I)=(F)+(G)+(H), 収入内訳, 国庫支出金, 都支出金, 分担金及び負担金, 使用料及び手数料, 繰入金, その他, 収入計(J), 収支差額(K)=(J)-(I), 一般財源投入割合

2 評価の部(CHECK)*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価
公共関与の妥当性
なぜこの事業を行政が行わなければならないのか?税金を使う必要があるか、民間や受益者ができる事業か?かつ、行政が行うとした場合、国・都が行う事業か、それとも市が行う事業か?
成果の向上余地
成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?
廃止・休止の成果への影響
事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?(そもそも、この事業は、施策の目的や公益の増進に役立っているか?)
類似事業との統廃合・連携の可能性
目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか?類似事業との統廃合ができるか?類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?

活動指標、対象指標、成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は?
芸術小ホールの建物自体の経年劣化が著しく、成果向上の妨げとなっている。

事業費の削減余地・歳入の確保
保余地
成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など)さらなる歳入を確保できないか?
人件費(延べ業務時間)の削減
やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか?成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか?(アウトソーシングなど)
受益機会・費用負担の適正化
見直し余地がある
公平・公正である
事務事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?

事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は?
開館から27年が経過し、施設及び設備の経年劣化が著しく、維持管理費は増加傾向にある。

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)
(1)担当課評価者としての評価結果
公共関与と妥当性
有効性
効率性
公平性
(2)全体総括(振り返り、反省点)
平成28年3月より、施設予約システムを導入した。開館から27年が経過し、施設、設備の改修が必要であり、都度対応はしている。引き続き、市民の芸術に対する関心や要求に応えるべく管理運営をしていくため、中長期的な計画に基づき、必要な改修を着実に実施していくことが求められている。

(3)今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可
(4)改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)
コスト
削減 維持 増加
向上
維持
低下

(5)改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策
設備更新、建物改修には大きなコストが生じる。
(6)<目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたこととなりますか。また、見直し・廃止となりますか?

事務事業マネジメントシート(兼 事務事業コスト計算書)

事務事業名: 芸小ホール文化芸術振興事業
政策名: 1ひとを育てる、守る
施策名: 施策6 文化・芸術活動の充実
予算科目: 一般 1 0 0 6 0 4 0 1 5 6 1 0 0
事業期間: 単年度のみ

事務事業の概要(事業の具体的な手順、詳細、期間限定複数年度事業は全体像を記述)
この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか)
芸小ホールは、昭和51年2月25日に社会教育委員の会より教育委員会へ答申された「国立市における社会教育施設のあるべき姿との配置及び施行の優先順位についての答申」を受け、昭和62年11月に開館、財団法人にたち文化・スポーツ振興財団による管理運営のち、平成18年度より、特定指定管理者制度が導入されたため、施設の維持管理には指定管理料を支払い、公益目的事業については補助金を交付している。

1 現状把握の部(PLAN)(DO)
(1) 事務事業の目的と指標
手段(主な活動)
平成27年度の実績(平成27年度に行った主な活動)
自主・共済事業36事業を実施、入場者数13,695人。
新たな事業として、アートビエンナーレ2015が開催され、関連事業が行われた。
平成28年度の事業計画(平成28年度に計画している主な活動)
アートビエンナーレは隔年開催のため、平成27年度は実施されない。
その他は、平成27年度と同程度実施の予定。
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等
市民
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)
文化・芸術により多く触れることで、より豊かな人間性を涵養
結果(どんな結果に結び付けるのか)
文化・芸術活動を支える人材が育ち、市内のギャラリー等を活用した取組みや文化・芸術活動のネットワークの整備などが幅広く行われ、市民が文化・芸術活動に親しんでいます。

(2) 各指標等の推移
項目: 事業数, 来場者数, 施設面積, 人口, 事業数, 来場者数, 過去1年間に文化・芸術活動を鑑賞した市民の割合, 過去1年間に文化・芸術活動をおこなった市民の割合
単位: 件, 人, m2, %, 件, 人, %, %
平成24年度(決算) 平成25年度(決算) 平成26年度(決算)(A) 平成27年度(決算見込み)(B) 平成28年度(当初予算) 目標年度(目標値) 差額(B)-(A)

(3) 事務事業コストの推移
項目: 正規職員従事人数, 延べ業務時間, 正規職員人件費計(C), 再任用職員従事人数, 延べ業務時間, 再任用職員人件費計(D), 嘱託職員従事人数, 延べ業務時間, 嘱託職員人件費計(E), 人に係るコスト計(F), 物件費, うち委託料, 維持補修費, 物に係るコスト計(G), 扶助費, 補助費等, 繰出金, その他, 移転支的コスト計(H), その他, 支出計(I)=(F)+(G)+(H), 国庫支出金, 都支出金, 分担金及び負担金, 使用料及び手数料, 繰入金, その他, 収入計(J), 収支差額(K)=(J)-(I), 一般財源投入割合
単位: 人, 時間, 千円, %
平成24年度(決算) 平成25年度(決算) 平成26年度(決算)(A) 平成27年度(決算見込み)(B) 平成28年度(当初予算) 目標年度(目標値) 差額(B)-(A)

2 評価の部(CHECK)*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価
公共関与の妥当性
見直し余地がある【以下に理由を記入】 3 改革・改善方向の部に反映
なぜこの事業を行政が行わなければならないのか?税金を使う必要があるか、民間や受益者ができる事業か?かつ、行政が行うとした場合、国・都が行う事業か、それとも市が行う事業か?
成果の向上余地
向上余地がある【以下に理由を記入】 3 改革・改善方向の部に反映
向上余地がない【以下に理由を記入】
芸小ホールは「興業団体や外部団体による利用よりもむしろ、市民が日常生活の中で営んでいるさまざまな文化創造・表現活動の場として、設立されていることから、施設は多目的にコンパクトである。そのため、集客目的の興業には向きであるが、企画部門に専門のディレクターを配置し、内容の拡充が図られており、年々成果は向上している。
廃止・休止の成果への影響
影響無【以下に理由を記入】 3 改革・改善方向の部に反映
影響有【その内容】
市民が文化芸術に触れる機会が減ってしまうため、市民にとって有益ではない。
類似事業との統廃合・連携の可能性
他に手段がある(具体的な手段、事務事業)
統廃合・連携ができる【以下に理由を記入】 3 改革・改善方向の部に反映
統廃合・連携ができない【以下に理由を記入】
他に手段がない【以下に理由を記入】
類似事業はない。

活動指標・対象指標・成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は?
企画部門に配置したディレクターにより、意欲的な事業が展開され、来館者からの評価も高い。今後も施設規模に見合った、質の高いプログラムを提供し続けることが重要であるが、専門的なスタッフの拡充も課題となる。

効率性評価
事業費の削減余地・歳入の確保
事業費削減(歳入確保)余地がある【以下に理由を記入】 3 改革・改善方向の部に反映
事業費削減(歳入確保)余地がない【以下に理由を記入】
平成26・27年度に実施されたアートビエンナーレ事業については、寄付金を集めるなど、財団自体が積極的に動いおり、一定以上の成果が出ている。ただし、恒常的に得られるものではないため、現状の補助金額を削減さらなる歳入を確保できないか?
人件費(延べ業務時間)の削減余地
削減余地がある【以下に理由を記入】 3 改革・改善方向の部に反映
削減余地がない【以下に理由を記入】
現状、最低限の事務事業時間である。
受益機会・費用負担の適正化
見直し余地がある【以下に理由を記入】 3 改革・改善方向の部に反映
公平・公正である【以下に理由を記入】
だれもが利用でき、公平・公正である

事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は?
事業の質を一定に保ちつつ、新たな試みを打ち出し続けることは、一人のディレクターだけで可能なものではなく、専門性を持った職員、さらなる配置が望まれる。事業費の増大が課題となる中、アートビエンナーレ事業など、新たな試みを実践しながらも、寄付や協賛を得られるよう財団としても努力を重ねている。

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)
(1) 担当課評価者としての評価結果
公共関与と妥当性 [x] 適切 [] 見直し余地あり
有効性 [] 適切 [x] 見直し余地あり
効率性 [x] 適切 [] 見直し余地あり
公平性 [x] 適切 [] 見直し余地あり
(2) 全体総括(振り返り、反省点)
ホールでのイベントは客席数と対価との関係で、相当の制約を受けるものの、「小ホール」ならではの企画に工夫がみられる、質の高いプログラムを「気軽」に「本物を楽しめる」機会として提供し続けられている。また、平成26・27年度に実施されたアートビエンナーレは、寄付金を得るなど、補助金を極力増やさない中での取組みであり、大きな成果を残したと考える。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可
[] 廃止 [] 休止 [] 事業統廃合・連携 [x] 事業のやり方改善(有効性改善)
[] 事業のやり方改善(効率性改善) [] 事業のやり方改善(公平性改善)
現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)
より多くの市民に興味関心を持ってもらえるよう、プログラムの質を高め、かつ多く提供していかなくてはならない。そのためには、専門的なディレクターが1名では心もとなく、スタッフの拡充が課題となる。アートビエンナーレ事業でも努力している寄付や協賛を得られる努力を重ねることも今後の課題ではある。
(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)
コスト
向上 削減 維持 増加
成果 維持 [] [] [x] []
低下 [] [x] [] [x]

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策
スタッフの拡充にはコストが生じる。
(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたこととなりますか。また、見直し・廃止となりますか?

事務事業マネジメントシート（兼 事務事業コスト計算書）

事務事業名	No. 1	くにたち市民文化祭開催事業				←実施計画上の重点施策 重点施策に該当する場合、ここから該当項目を選択してください			
政策名	No. 1	1ひとを育てる、守る				所属部	教育委員会	所属課	公民館
施策名	No. 6	施策6 文化・芸術活動の充実				所属係	公民館	課長名	石田 進
予算科目	会計 一般	1: 0	0: 8	0: 2	0: 1	5: 7	6: 0	0	法令根拠 社会教育法、公民館の設置及び運営に関する基準
事業期間	単年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返		期間限定複数年度 (昭31年度～年度)				
事務事業の概要(事業の具体的な手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)					この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか)				
くにたち市民文化祭は、昭和31年に公民館の呼びかけによって始められた。以後毎年4月に市民が実行委員会を結成し、参加サークルを募り11月を中心に10月から12月にかけて、市内公共施設(公民館、福祉会館、芸術小ホール等)を使用して、自分たちのサークル活動の成果を発表している。公民館は事務局として、会場確保(申し込みを含む)・運営、消耗品購入、印刷物の製作、物品の搬送、記録集の刊行等の支援を行っている。参加サークルは、芸術、芸能を中心に国際交流、市民活動など多岐にわたっている。新規参加のサークルも増えてきているが、課題としては、公民館以外の会場使用について、今後利用料金が発生することが考えられ、その予算の検討が必要である。本事業は、あくまで市民のサークル同士が成果を発表する中で交流することを目指し、人間関係を豊かにして、地域社会の文化活動を活性化することにある。					昭和31年に公民館のよびかけにより開始。以後毎年4月に市民が実行委員会を結成し、参加サークルを募り10月から12月にかけて、市内公共施設(公民館、福祉会館等)を使用して、実施している。				

1 現状把握の部(PLAN)(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

平成27年度の実績(平成27年度に行った主な活動)

市民文化祭実行委員会の立ち上げと呼びかけ、実行委員会開催、参加サークル集約、会場確保、消耗品購入・配布、合同イベント開催、開催式典実施、反省会開催、記録集編集・発行を実施した。

なお、今年度の開催式典は、公民館開館60周年記念式典と同時開催とした。

平成28年度の事業計画(平成28年度に計画している主な活動)

27年度に準じるが、式典は文化祭単独でオープニングセレモニーとして開催する。

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

日常的に文化・芸術活動、芸能活動、市民活動を市内を中心に展開している市民サークル

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

サークル間の交流を活発にする。

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)

市民が、文化・芸術活動に親しむ。文化活動等に参加してみたいと思う市民と、既存のサークルを結びつける。自分たちでサークル活動ができる機会を提供する。

(2) 各指標等の推移

項目	名称	単位	平成24年度(決算)	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)(A)	平成27年度(決算見込み)(B)	平成28年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)
① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	実行委員会開催回数	回	5	4	4	4	4	0
		会場使用数	会場	215	248	205	205	205	0
② 対象	対象指標(対象の大きさを表す指標)	市民サークル数	団体	509	604	604	604	604	0
		参加団体・サークル数	団体	18	28	23	28	28	5
③ 意図	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	新規参加サークル数	団体	1	10	1	2	1	1
		過去1年間に文化・芸術活動を鑑賞した市民の割合	%	49	53	50	50	50	0
④ 結果	上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	過去1年間に文化・芸術活動をおこなった市民の割合	%	20	22	21	22	22	1

(3) 事務事業コストの推移

項目	単位	平成24年度(決算)	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)(A)	平成27年度(決算見込み)(B)	平成28年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)
支出内訳	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2	0
	延べ業務時間	時間	242	242	242	242	200	0
	正規職員人件費計(C)	千円	1,210	1,210	1,210	1,210	1,000	0
	再任用職員従事人数	人						0
	延べ業務時間	時間						0
	再任用職員人件費計(D)	千円	0	0	0	0	0	0
	嘱託職員従事人数	人	1	1	1	1	2	0
	延べ業務時間	時間	228	228	228	228	349	0
	嘱託職員人件費計(E)	千円	342	342	342	342	524	0
	人に係るコスト計(F)	千円	1,552	1,552	1,552	1,552	1,524	0
物に係るコスト	物件費	千円	525	544	547	551	590	4
	うち委託料	千円	28	19	21	30	30	9
	維持補修費	千円						0
物に係るコスト計(G)	千円	525	544	547	551	590	4	
移転支的コスト	扶助費	千円						0
	補助費等	千円						0
	繰出金	千円						0
	その他	千円						0
移転支的コスト計(H)	千円	0	0	0	0	0	0	
その他	千円							0
支出計(I)=(F)+(G)+(H)	千円	2,077	2,096	2,099	2,103	2,114	0	4
収入内訳	国庫支出金	千円						0
	都支出金	千円						0
	分担金及び負担金	千円						0
	使用料及び手数料	千円						0
	繰入金	千円						0
	その他	千円						0
	収入計(J)	千円	0	0	0	0	0	0
収支差額(K)=(J)-(I)	千円	-2,077	-2,096	-2,099	-2,103	-2,114	0	-4
一般財源投入割合	%	100%	100%	100%	100%	100%	#DIV/0!	

2 評価の部(CHECK) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

公共関与性評価	① 公共関与の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【以下に理由を記入】 なぜこの事業を行政が行わなければならないのか?税金を使う必要があるか、民間や受益者ができる事業か?かつ、行政が行うとした場合、国・都が行う事業か、それとも市が行う事業か?
有効性評価	② 成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【以下に理由を記入】 成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?
	③ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?(そもそも、この事業は、施策の目的や公益の増進に役立っているか?)
効率性評価	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【以下に理由を記入】 <input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【以下に理由を記入】 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか?類似事業との統廃合ができるか?類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?

活動指標・対象指標・成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は?

参加団体によっては、参観者が一般市民というよりも、参加者の家族、知人といった方が多いという課題はあるが、27年度は、サークル同士が連携したプログラムを企画するなど、参観者の増加と参加者間の交流を図ることができた。

公平性評価	⑤ 事業費の削減余地・歳入の確保	<input type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がない ⇒【以下に理由を記入】 各団体の厳しい運営状況があり、削減の余地がない。
公平性評価	⑥ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【以下に理由を記入】 現状の最低限の事業時間で事業を行っているため削減余地はない。
	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】 市民サークル全てを対象としており、公平公正である。

事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は?

開催場所を公民館のみとすると、文化祭に参加しないサークルが会場を使用できなくなるため、福祉会館、芸術小ホール等、他の会場を使用いただいている都合上、全体の期間として長くなってしまっているのが課題である。

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)

(1) 担当課評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
<p>① 公共関与と妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり</p> <p>② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり</p> <p>③ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり</p> <p>④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり</p>	<p>開始から半世紀を経過し、18年度から補助金事業としてではなく公民館予算に組み込まれた事業となっている。参加団体の中には、世代交代に対応できず高齢化が進んでいることも否めない。ただし、新規参加団体も増えてきており、今後は、事業の拡大と活性化、世代間の交流を図ることも念頭に入れる必要がある。</p>

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善)
<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善)	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善)		
現状維持(従来通りで特に改革改善しない)			
これまで60回を数えた文化祭の参加団体とその活動内容は、安定し多くの市民に知られてきた実績がある。しかし、一方では、団体の世代交代が進んでいない現状もある。よって、今後は更に各団体の活発な活動と新規参加を促す方向で実施したい。			

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

	削減	維持	増加
向上		○	
維持			×
低下	×		×

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

団体の活発な活動については、日ごろからの活動を見学できるようにし、新しいメンバーの増員をしやすくすることも必要である。また、魅力ある新たな文化祭の形態の追求(参加団体間の交流など)もしくは、新たな企画(文化・芸能の講座など)を盛り込むなど、毎年参加している団体の意見と協力を仰ぎながら検討していく必要もある。そこから事業の拡大、活性化、効率化が進むと思われる。

(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたこととなりますか。また、見直し・廃止となりますか?市内のいたる場所において、文化や芸術に関する交流や活動がいつでもどこでも展開できる状況になる時